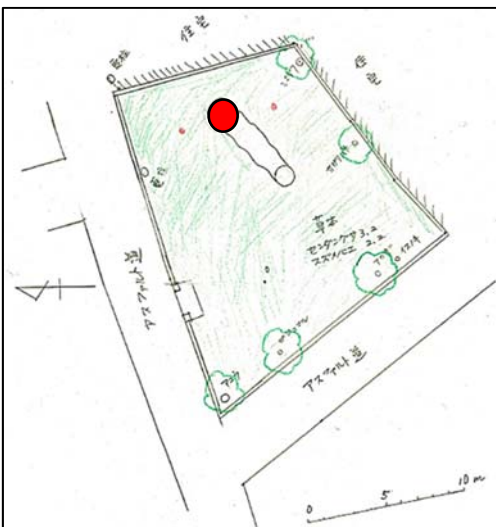


アシビナーのアコウ



国土地理院 地理院地図 (電子国土 Web)



認定番号 120

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|------------------------------------|--------------|------------|--|---|---|------|-------|-------|------|------|
| 樹種名 | アコウ | 科名 | クワ科 | 方言名 | ウスクガジュマル | 学名 | <i>Ficus superba</i> (Miq.) Miq. var. <i>jiaponica</i> Miq. | | | | | |
| 形状・寸法 | 樹高 7.4 m | 胸高周囲 2.5 m | 根本周囲 3.8 m | 樹幹占有面積 129 | | | | | | | | |
| | 枝下高 2.4 m | 枝張 東 8 m 西 3.7 m 南 6.8 m 北 7.1 m | 最大樹冠幅 13.9 m | | | | | | | | | |
| 通称 | アシビナーのアコウ | | 樹齢 300 年(推定) | 所有者 | 1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 | | | | | | | |
| 所在地 | うるま市与那城西原72-1 | | | 立地場所 | 1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他 | | | | | | | |
| 立地場所 | 1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡) | | | | | | | | | | | |
| 保護制度 | 1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし | | | 気象条件 | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | |
| 周囲の状況 | 1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 () | | | | (最寄りの7マス*1-7) | 平均気温(°C) | 16.6 | 16.8 | 19.0 | 22.2 | 24.9 | 28.7 |
| 土地傾斜 | 1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向: | | | 地点:那覇 | 降水量(mm) | 22.0 | 47.0 | 95.5 | 100.0 | 197.5 | 38.0 | |
| | 土壌 | 1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 () | | | 2015年 | 平均風速 | 5.3 | 4.7 | 5.1 | 4.8 | 4.7 | 5.8 |
| 基岩・母材 | | | | 地形 | 風向 | N | N | N | SSE | SSW | SSW | |
| | | | | | 潮風の影響 | 1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記) | | | | | | |
| 土性 | 1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない | | | 周辺樹木の影響 | 日照条件 | 1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良 | | | | | | |
| | | | | | 周辺樹木の状況 | 1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況) | | | | | | |
| 根元及び周囲の植生 | 草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし | | | 周辺根元の状況 | 1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし | | | | | | | |
| 根元及び周囲の植生 | | | | 周辺樹木との関係 | 1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている | | | | | | | |

| | | |
|-----------|---|--|
| 管理状況 | 1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他 | |
| 過去の治療歴と内容 | | |
| 故事来歴 | 1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明 | |
| 視認性 | 1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由) | |
| 特記事項 | 1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ、ヘクソカズラ、ガジュマル他) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット | |

地上部の衰退度判定（認定番号120）

| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
|--------------|---------------------|----------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1 樹勢 | 旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない | 幾分影響を受けているが、あまり目立たない | 異常が明らかに認められる | 生育状況が極めて劣悪である | 殆ど枯死 |
| 2 樹形 | 自然樹形を保っている | 若干の乱れはあるが、自然樹形に近い | 自然樹形の崩壊がかなり進んでいる | 自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している | ほとんど完全に崩壊 |
| 3 枝の伸長量 | 正常 | 幾分少ないが、目立たない | 枝は短くなり、細い | 枝は極度の短小、シヨウが状の節間がある | 下からの萌芽枝のみ僅かに生長 |
| 4 梢や上枝の先端の枯損 | なし | 少しあるが目立たない | かなり多い | 著しく多い | 梢端がない |
| 5 下枝の先端の枯損 | なし | 少しあるが目立たない | かなり多い、切断が目立つ | 著しく多い、大きな切断がある | ほとんど健全な枝端がない |
| 6 大枝・幹の損傷 | なし | 少しあるが回復している | かなり目立つ | 著しく目立つ大きく切断されている | 大枝・幹の上半分がかけている |
| 7 枝葉の密度 | 枝と葉の密度のバランスが取れている | 0に比べてやや劣る | やや疎 | 枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎 | ほとんど枝葉がない |
| 8 葉の大きさ | 葉が全て十分な大きさ | 所々に小さい葉がある | 完全にやや小さい | 全体に著しく小さい | 僅かな葉しかなく、それも小さい |
| 9 樹皮の傷 | 傷はほとんどなし | 穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない | 古傷がある | 傷からの腐朽が著しい | 大きな空洞、剥がれがある |
| 10 樹皮の新陳代謝 | 樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発 | 普通 | 樹皮に活力がない | 著しく活力がない | 樹皮の大部分が枯死 |
| 11 胴吹き・ひこばえ | 枝は量が多く胴吹きひこばえもない | 枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある | 枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある | 枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い | 枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない |

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.73

衰退度判定基準

| 衰退度区分 | I | II | III | IV | V |
|-------|---|------------|-------------------|-----------------|--------------------|
| | | 0.8未満 良 | 0.8~1.6未満 やや不良 | 1.6~2.4未満 不良 | 2.4~3.2未満 著しく不良 |

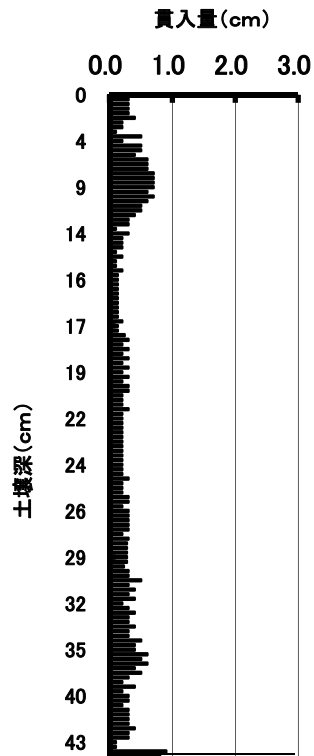
倒木・枝折れ等危険度判定

| 項目 | 判定 | | | |
|---------------|----|-------|-------|--------|
| | 安全 | 可能性あり | 可能性高い | 明らかに危険 |
| 通行者・建物等との位置関係 | ○ | | | |
| 根返り | ○ | | | |
| 幹折れ | ○ | | | |
| 大枝折れ | | ○ | | |
| 中・小枝落下 | | ○ | | |
| 幹の傾斜の増大 | ○ | | | |
| その他(ワイヤロープ) | | | | |

土壤調査結果（認定番号 120）

| 層位 | 土壤色 | 深さ | 構造 | 土性 | pH | EC(dS/m) |
|-----|---------|------|----|--------|-----|----------|
| I | 10YR3/4 | 0-6 | 粒状 | 埴壤土 | 8.2 | 2.2 |
| II | 10YR4/4 | 6-29 | — | 埴壤土 | | |
| III | 10YR8/6 | 29- | — | シルト質壤土 | | |

土壤貫入量結果



| 部位 | 所見 | 対応 |
|----|--|--|
| 土壌 | <ul style="list-style-type: none"> ・土壌はジャーガルで土層は浅く、60cm 程度である。 ・0～30cm は埴壤土、30cm 以深はシルト質壤土で堅い。 ・pH、EC はそれぞれ 8.2、2.2(dS/m)。 | <ul style="list-style-type: none"> ・無し |
| 根 | <ul style="list-style-type: none"> ・鋼棒貫入の異常は認められない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・無し。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地際部にイチジクカミキリのフラスが見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・イチジクカミキリの駆除を検討する。 |
| 幹 | <ul style="list-style-type: none"> ・高さ 40 cmに縦 10 cm、横 7 cm、深さ 14 cmの芯に達する開口空洞があり、その部位を新しい気根が取り囲んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・気根を誘導し、支柱根に仕立てることを検討する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・高さ 1.5m に長さ 40 cmのイチジクカミキリの食害痕が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・食害を受けて腐朽した部位の切除、殺菌消毒、癒合剤の塗布を検討する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・北側高さ 4.5m の大枝基部に深さ 10 cmの空洞が見られる。 ・南西側高さ 4m に深さ 40cm の芯に達する空洞が見られる。 ・高さ 3.9m 幹の分岐部に亀裂が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・無し。 |
| 枝 | <ul style="list-style-type: none"> ・枝密度が高く、擦れによる傷が多い。 ・枝が公民館側に越境。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整枝剪定を検討する。 |
| 葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・密度、葉色、大きさとも正常であるが、食葉性害虫の食害痕が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活力が低いので害虫(特にしばしば大発生するホシヒトリモドキ、イチジクヒトリモドキ)の発生に注意し、発生した場合駆除を検討する。 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・台風により幹が東方向に倒伏し、大枝が地表に刺さり、現在の幹になっている。 | |

